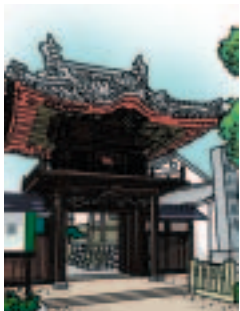


① 露心庵跡
 天正11年(1583)にこの付近で行われた合戦の戦死者を弔うために建てられた小堂の跡です。ここから西が亀山宿となります。

② 巡見道・本町広場
 東海道と巡見道との分岐点です。巡見道は東海道から分かれて鈴鹿山脈の東麓を縦貫して中山道へ抜ける道で、江戸時代に各地の政情を巡察する巡見使が通ったことからこの名があります。

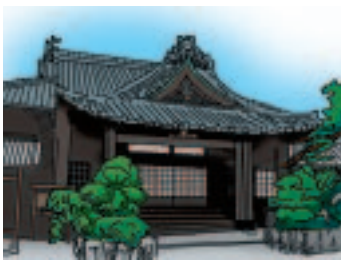
③ 福泉寺山門
 福泉寺は平安時代に創建されたと伝えられる古刹です。山門は寛政7年(1795)の建立で、近世の地方有力寺院の典型的な建築例として、平成8年に市指定文化財(建造物)に指定されています。



④ 法因寺左巻きカヤ
 推定樹齢300年の巨樹で、実に見られる堅筋が左巻きとなる珍しいカヤの木です。昭和26年に市天然記念物に指定されています。



⑤ 高札場跡
 亀山城大手門前帯は、宿の中心のな位置となり、高札場・本陣・脇本陣などの主要施設が集中していました。大手門から高札場にかけては広場となっており、城主在城時に諸大名が亀山宿を通過する際は、「御馳走」と称して出迎える儀礼を行なうならわしとなっていました。

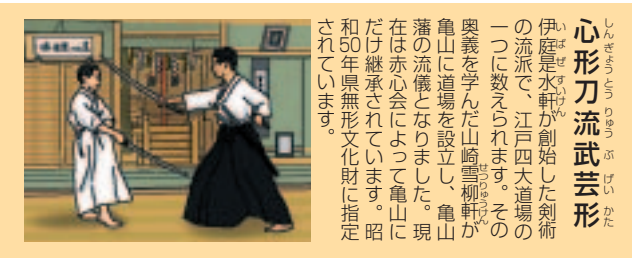


⑥ 遍照寺本堂
 文久2年(1863)に建てられた亀山城二之丸御殿の大書院と式台部分を、明治5年に移築したものです。壮大な大名御殿の姿を示す貴重な遺構です。

⑦ 善導寺
 元は亀山城本丸付近にあり、岡本宗憲が築城するにあたって現在地に移転したと伝えられる古刹です。境内には亀山城本丸から出土した石造物が安置されているほか、墓地内には江戸時代初期の亀山城三宅康信室である清光院墓塔や潘校明倫舎教授の儒学者山木善太墓(市史跡)があります。



オランダ商館員が見た亀山宿
 長崎出島にあったオランダ商館の館長は、将軍に謁見するため、長崎と江戸の間を旅し、ここに随行した商館員の旅行記が残っています。ケンペル(ドイツ人医師)の「江戸参府旅行日記」や、シーボルト(ドイツ人医師)の「江戸参府紀行」などですが、特にケンペルは亀山宿を詳細に記述しています。
 「元禄4年(1691)4月14日 江戸から長崎に向かった折」
 「亀山は大きな豊かな町で、二つの平らな丘の上であり、真ん中に小さな谷が通っていた。門が一つと土壁と石垣があったが、曲がった肘のようになった道には、郭外の町々の家を除き、約2000戸の家があり、右側には堀や土壁や石垣をめぐらした城がある。」
 「江戸参府旅行日記 平凡社 1977年 斎藤信訳」



心形刀流武芸形
 伊庭流が創始した剣術の流派で、江戸四大道場の一つに数えられます。その奥義を学んだ山崎雪柳軒が、亀山に道場を設立し、亀山藩の流儀となりました。現在は赤心会によって亀山にだけ継承されています。昭和50年県無形文化財に指定されています。

⑦ 亀山市歴史博物館
 亀山藩主遺品や亀山宿・亀山城復元模型など、亀山市の歴史文化に関する資料が収蔵展示されています。企画展のほか、年に数回テーマ展示を行っています。入館料 大人200円(160円) 学生100円(80円) ※(一)内は20名以上の団体 休館日 火曜日・3000
 0595-1831
 3000



⑧ 梅蔵寺
 亀山城付近には、亀山藩主石川家菩提寺である、梅蔵寺、本久寺、本久寺と亀山にあり、これら三つの寺はもと亀山にあった寺ではなく、石川家の転封にともない移転や創設されたものです。石川家歴代藩主の墓は大部分が江戸の大久寺にあり、亀山にはありませぬ。なお、本宗寺本堂は、亀山城三重櫓の旧部材を使って建立されたものです。



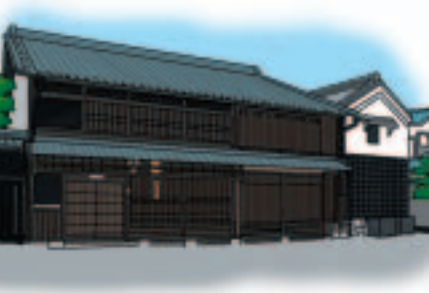
⑨ 青木門跡
 亀山城の搦手門で、亀山藩がここに門を通るときに、門一帯にアオキが茂っていたことを賞賛したことから青木門と呼ばれ、現在も残っています。



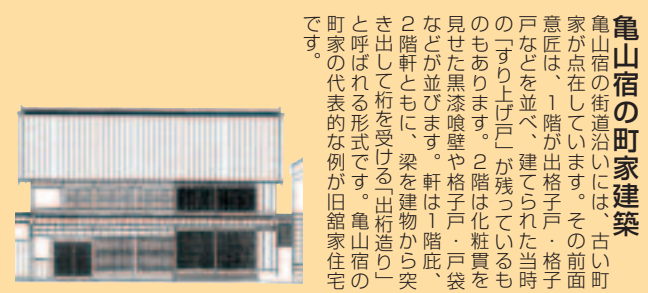
志賀直哉と亀山
 志賀直哉(1883-1971)は、宮城県石巻市生まれの小説家です。わが国における私小説のスタイルを確立し、「小説の神様」と賞され、昭和24年に文化勲章を受章しています。志賀直哉の生母は亀山の出身であることから、若くして亀山を訪れています。17歳の歳月をかけて執筆した長編小説である「暗夜行路」には亀山から亀山城跡などを巡った情景が描写されています。



⑫ 加藤家屋敷跡
 加藤家は江戸後期の亀山城主石川家の家老職で、その屋敷地の大半が良好な状態で残されています。江戸時代武家建築の状況を示す貴重な例として、昭和26年に長屋門土蔵が、市指定文化財(建造物)に、敷地の大半が市史跡として指定されています。



⑩ 旧館家住宅(枳屋)
 枳屋は幕末から大正にかけて呉服商を営んでいた大店で、現在の主屋は明治6年(1873)に建てられました。亀山宿を代表する商家建築として平成19年に市指定文化財(建造物)に指定されています。



亀山宿の町家建築
 亀山宿の街道沿いには、古い町家が点在しています。その前面意匠は、1階が出格子戸・格子戸などを並べ、建てられた当時の「すり上げ」が残っているものもあります。2階は化粧貫を見せた黒漆喰壁や格子戸・戸袋などが並びます。軒は1階庇、2階軒ともに、梁を建物から突き出して桁を受ける「出桁造り」と呼ばれる形式です。亀山宿の町家の代表的な例が旧館家住宅です。